

大阪市立大学医学部附属病院脳神経外科で
MEG(脳磁図)を外来で受けられる患者様へ

MEG(脳磁図)は、脳に発生する微小な磁場をとらえて画像化する検査です。主にてんかんの焦点診断に用いられています。但し、MEG のみで正確な診断ができるというよりは、他の検査(脳波、MRI、PET、SPECT など)と合わせて総合的に診断を下すための一つの検査とお考えください。

- (1) 当日は時間に余裕をもってお越しください。まず、病院1階の総合受付で受付をすませていただき1階の脳神経外科外来に立ち寄っていただきます。注射による鎮静処置が必要な場合には脳外科外来にて点滴ルートをとります。内服による鎮静処置が必要な場合には脳外科外来で処方された内服薬を飲んでいただきます。準備が整えば病院職員が地下3階の検査室に案内します。検査は40分から90分程度です。脳波をつけて検査します。検査は閉眼して安静にしておいていただければスムーズに終わります。必要に応じて鎮静(内服や注射)を行いますが、薬の影響で磁場が変化することもあるので、可能な限り薬を使わない方が良いと考えられます。
- (2) 検査中、必要があればご家族1名は検査室に入っていただくことが可能です。アクセサリ、金属の入った服や下着などを身に着けての検査室入室はできません。患者さん、御家族にMRI検査用の検査着はお貸しできます。脳波用のペーストは検査後に3階の脳波室の洗面台で簡易的には洗い流せますが、完全にはとれません。
- (3) 動きに敏感な検査です。安静を保てないと結果が出ない可能性が高くなります。とれない差し歯や歯の矯正でアーチファクトが強く解析できない場合があります。とくに、普段から脳波異常が目立たない患者さんでは、結果がでない可能性があります。機器の不具合などで当日になって急に検査ができなくなる可能性があります。この場合には後日、再検査を行うこととなります。
- (4) 検査が終われば、3階の脳波室でペーストを洗い流し、1階で会計をすませてお帰り下さい。点滴ルートの抜針が必要な場合には1階の脳神経外科外来に立ち寄っていただきます。結果が出るまでには1-3週間かかります。後日、主治医の先生から伝えて頂くことになります。

2016年9月1日

脳神経外科 MEG 担当 宇田 武弘